報道関係者各位

Press Release
2024年3月12日

【京都会場オリジナルのポスタービジュアル発表！】 オリジナルグッズ紹介＆グッズセット券発売

倉俣史朗のデザイン―記憶のなかの小宇宙

会期／2024年6月11日（火）～8月18日（日）　　会場／京都国立近代美術館

2024年6月11日（火）～8月18日（日）の期間、京都国立近代美術館にて「倉俣史朗のデザイン―記憶のなかの小宇宙」を開催いたします。

京都国立近代美術館で「倉俣史朗の世界」展が開催されたのは、1999年のこと。1991年に56歳という若さで倉俣史朗が急逝した後、没後5年に企画され、東京、メキシコシティ、サンフランシスコ、ニューヨーク、パリ、ウィーンなど世界各地を巡回した展覧会でした。それから25年を経て、再び京都に倉俣史朗の代表作が帰ってきます。東京・富山を巡回した本展は、京都会場で幕を閉じます。

倉俣史朗（1934–1991、東京生まれ）は、銀座のランドマークとなる商業施設「三愛ドリームセンター」の店内設計で注目を集め、1965年にはクラマタデザイン事務所を設立して独立します。高度経済成長とともに変化し続ける都市を舞台に、インテリアデザイナーという、当時はまだ曖昧な認識しかなかった領域で活躍します。透明なアクリルを使用して、まるで商品が浮いているようにみえる棚、光そのものに形を与えたかのようなショーケース。華やかで移り変わりの激しい商業空間を、倉俣は永続性のない幕間劇にたとえました。

一方で、商品化を前提とせず、自主的に制作した家具を発表しています。遊び心を感じさせる変型の引出し、板硝子を貼り合わせ最小限の構造を突き詰めた椅子、造花のバラが浮遊するアクリルブロックの椅子。1981年にエットレ・ソットサスに誘われて、イタリアのデザイン運動「メンフィス」に参加すると、一躍国際的な評価を高めました。倉俣が「言葉で語れない部分を形で言おう」とした家具たちは、大切に保管されて受け継がれ、今なお能弁なまでに魅力的です。

当時の雑誌には、毎月のように倉俣のインテリアや家具、そしてその時々の言葉が紹介されていました。彼の話は、デザインと一見関係のないような、幼少期の思い出や、夢に見たことにまで広がっていきます。本展では、こうした倉俣自身の言葉を辿りながら、創作の源泉ともいえる夢日記などの資料とともに、彼のデザインが語りかけるメッセージに耳を傾けます。

菊地敦己氏デザイン　京都会場の展覧会メインビジュアル決定

京都国立近代美術館における「倉俣史朗のデザイン」展メインビジュアルは、菊地敦己氏による、倉俣史朗の代表作《硝子の椅子》を透過し、80年代のアクリルブロックを用いた色の実験をうかがわせるデザインとなりました。
ミニマルで「見えない」椅子の存在感が、かろやかな色の空間に浮かび上がります。

板ガラス6枚を貼り合わせただけの、最小限の構造によって成り立つ《硝子の椅子》。
1976年にデザインされた倉俣史朗の代表作は、エピソードに事欠かない。ガラス同士を接着できるフォトボンドを三保谷硝子が持ち込むと、倉俣は30分後に椅子の図面を引き、翌日には試作品が完成したといわれる。「2001年宇宙の旅」に登場する、宇宙ステーションのインテリアをイメージしたとも、最初に座ったのはデザイナーの石岡瑛子だったとも。座る者が試されるような緊張感を纏う、ミニマルなデザインの椅子は、東野芳明がキュレーションを務めた「Art Today '77　見えることの構造」展に出品されるなど、アートに接近するこの時期の倉俣の活動を象徴する作品である。
一方で《硝子の椅子》を経て、倉俣の作品には曲線や淡い色使いが用いられるようになる。80年代にかけて、いわゆるポストモダンへと作風が転換する時期の作品としても重要だ。当時、たんぽぽの咲く公園で撮影をしていると、子どもたちが「見えない椅子」に喜んだという。倉俣が、「椅子という実態を認めながら、言葉の上では見えないという、このわずかな透き間に実は広大な宇宙を見る思いがする」と言うように、**見えているから見えないと感じられる**、この逆説的なアプローチは、テラゾーやアクリルブロックを用いたその後の作品で、さまざまに試みられてゆく。



菊地敦己Profile／
1974年東京生まれ。2011年菊地敦己事務所を設立。主な仕事に青森県立美術館（2006）やPLAY! MUSEUM（2020）のVI・サイン計画、ミナ ペルホネン（1995–2004）やサリー・スコット（2002–20）のアートディレクションなど。主な受賞に、展覧会図録『野蛮と洗練 加守田章二の陶芸』（菊池寛実記念 智美術館、2020）にて亀倉雄策賞、また原弘賞（2018）、日本パッケージデザイン大賞（2017）、講談社出版文化賞（2013）など。

展覧会構成

本展では、プロローグとして独立前の三愛時代の仕事を紹介し、その後年代に沿った4章構成として、倉俣の言葉にもとづくテーマごとに作品を展示します。エピローグには、これまであまり公開されてこなかった、私信や夢日記、イメージスケッチをまとめて紹介。途中、その曲名が作品タイトルにもなった愛蔵のレコードや、蔵書を「倉俣史朗の私空間」としてご覧いただきます。倉俣史朗の業績を代表作で回顧するとともに、足跡を辿ることで、キャリアの途中で突然失われた「その先」を想像します。

プロローグ	浮遊への手がかり	独立前の仕事を収めた「スクラップブック」など
第1章	視覚より少し奥へ　1965–1968	《引出しの家具》、《ピラミッドの家具》など
第2章	引出しのなか　1969–1975	《変型の家具 Side 1》、《ランプ（オバQ）　[小] 》など
第3章	引力と無重力　1976–1987	《硝子の椅子》、《トウキョウ》、《ハウ・ハイ・ザ・ムーン》など
第4章	かろやかな音色　1988–1991	《ミス・ブランチ》、《アクリルサイドテーブル #2》など
エピローグ	未現像の風景	田中信太郎宛書簡、イメージスケッチ「夢日記」など

倉俣作品の遊びごころが日常を彩る。展覧会オリジナルグッズ／グッズセット券のご紹介

なかなか手に取ることのできない倉俣史朗の作品ですが、本展のために、作品の世界観を伝えるオリジナルグッズをご用意しました。
まずは、東京会場で特に反響の大きかった「ハンカチ」をご紹介します。



ハンカチ：48cm×48cm、綿100%、平織り、インクジェットプリント
©Kuramata Design Office

■絵柄は2種類



倉俣デザインのアイコンともいえる「スタピース」
《トウキョウ》（1983）に使用された、カラーガラスの破片を入れたテラゾー「スタピース」は、倉俣にとってアイコニックな素材です。試行錯誤を経て、80年代に家具やインテリアに用いられるようになった素材の詩的なネーミングは、倉俣とともに働いた職人によるもの。硝子片が表面に散りばめられて光を反射する姿は、実際の重量を想像させないほど軽やかで儚い印象を与え、倉俣自身はこれを「記憶の破片」と言い表しています。
スタピースのプリント地は、ベッド《ラピュタ》（1991）のシーツとして制作されていますが、今回は本展出品作《トウキョウ》を撮りおろし、色とりどりのガラスの濃淡が美しい部分をハンカチに仕上げました。



倉俣史朗による可愛い猫のスケッチ（四隅に異なる柄）
エピローグでは、「夢日記」をはじめとしたドローイングを紹介します。活動の初期、スケッチを描かないことを公言していた倉俣は、80年代には、すでに発表した家具のイメージを膨らませるような「イメージスケッチ」を描くようになりました。飼い猫が《ハウ・ハイ・ザ・ムーン》（1986）と戯れたり、花畑に《ミス・ブランチ》（1988）が楽しげに集まったり。「夢は養分でもあり、現実でもあり、ある解放区でもある」と倉俣は語っているとおり、夢と現実の間に、作家のユーモアと作品の世界観が感じられます。ハンカチでは、四隅にそれぞれ異なる猫のドローイングを配しています。

人気の倉俣展グッズがセットになった期間・数量限定「グッズセット券」
ご紹介したハンカチ１枚と入場券1枚がセットに。
会期中にハンカチ（会場販売価格：税込1,980円）と一般当日券（1,700円）をそれぞれ買うよりも480円お得です。
会場にて2柄から選べます。セット券は期間・数量限定販売。
価　　格：税込3,200円（数量限定）
販売期間：3月15日（金）～6月10日（月）
販 売 先 ：ローソンチケット（Lコード：52999）https://l-tike.com/kuramata/

開催概要

【展覧会名】倉俣史朗のデザイン―記憶のなかの小宇宙
【開催期間】2024年6月11日（火）～8月18日（日）
【開館時間】午前10時～午後6時（金曜日は午後8時まで）※入館は閉館の30分前まで
【休 館 日】月曜日（ただし、7月15日（月・祝）、8月12日（月・祝）は開館）、7月16日（火）、８月13日（火）
【観 覧 料】一般1,700円（1,500円）、大学生1,100円（900円）、高校生600円（400円）
※本料金でコレクション展もご覧頂けます。　※（ ）内は前売および20名以上の団体料金。
※中学生以下無料。心身に障がいのある方と付添者１名は無料。母子・父子家庭の世帯員の方は無料。入館の際に証明できるものをご提示ください。
《前売券販売期間：4月11日（木）～6月10日（月）》
[チケット販売場所]
京都国立近代美術館ホームページ（公式オンラインチケット）、チケットぴあ（Pコード：686-882）、ローソンチケット（Lコード：52999）、セブンチケット（セブンコード：105-024）、イープラスほか主要プレイガイドやコンビニエンスストアなど
※チケット購入時に手数料がかかる場合があります。
【会　　場】京都国立近代美術館［岡崎公園内］（〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町）
【主　　催】京都国立近代美術館、朝日新聞社
【特別協力】クラマタデザイン事務所
【協　　賛】竹中工務店
【お問合せ 】075-761-4111
[美術館公式HP] https://www.momak.go.jp/

［広報画像一覧］倉俣史朗のデザイン―記憶のなかの小宇宙

広報用画像を提供いたします。ご希望の場合は、下記よりお申込みください。

［申込フォーム］https://forms.gle/kFq2bAte4hPuaDNk7

※入力が難しい場合は、広報事務局までお問い合わせください。

【広報用画像使用に関する注意事項】

■本展広報目的での使用に限ります（会期終了まで）。使用後は、データの破棄をお願いいたします。
■展覧会名、会期・会場名のほか、画像掲載の際は作品名、所蔵先、コピーライトを必ずご掲載ください。
■画像は全図でご使用ください。トリミング、文字乗せなどの加工・改変はできません。
■転載、再放送など、二次使用される場合は別途申請をお願いいたします。なお、展覧会終了後の二次使用はできません。
■webサイトに掲載する場合は、72dpi 以下、400×400pixel 以下の解像度にし、コピーガードをかけてご掲載ください。
■基本情報、画像使用などの確認のため、ゲラ刷り・原稿段階のものを「広報事務局」にお送りください。
■掲載・放送後は、必ず掲載紙（誌）、同録DVDを下記「広報事務局」までお送りください。

【1】



【2】



【3】



【4】



【5】



【6】



【7】



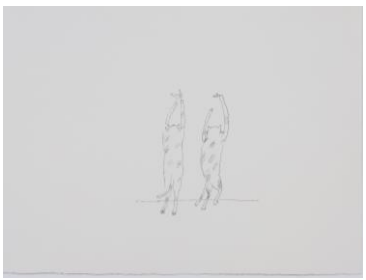
【8】



【9】



【10】



【11】



【12】



［広報画像申込書］倉俣史朗のデザイン―記憶のなかの小宇宙

【広報用画像使用に関する注意事項】

■本展広報目的での使用に限ります（会期終了まで）。使用後は、データの破棄をお願いいたします。
■展覧会名、会期・会場名のほか、画像掲載の際は作品名、所蔵先、コピーライトを必ずご掲載ください。
■画像は全図でご使用ください。トリミング、文字乗せなどの加工・改変はできません。
■転載、再放送など、二次使用される場合は別途申請をお願いいたします。なお、展覧会終了後の二次使用はできません。
■webサイトに掲載する場合は、72dpi 以下、400×400pixel 以下の解像度にし、コピーガードをかけてご掲載ください。
■基本情報、画像使用などの確認のため、ゲラ刷り・原稿段階のものを「広報事務局」にお送りください。
■掲載・放送後は、必ず掲載紙（誌）、同録DVDを下記「広報事務局」までお送りください。

［キャプション一覧］ご希望の画像番号の□に✓をお願いします。

番号	クレジット一覧
1□	京都会場の展覧会メインビジュアル　※クレジットなし
2□	倉俣史朗《変型の家具 Side 1》1970年 青島商店エムプラス蔵 撮影：道忠之 © Kuramata Design Office
3□	倉俣史朗《ランプ（オバQ）［小］》1972年 個人蔵　撮影：道忠之 © Kuramata Design Office
4□	倉俣史朗《硝子の椅子》1976年 京都国立近代美術館蔵 撮影：道忠之 © Kuramata Design Office
5□	倉俣史朗《トウキョウ》1983年 株式会社イシマル蔵 撮影：道忠之 © Kuramata Design Office
6□	倉俣史朗《椅子の椅子》1984年 富山県美術館蔵 撮影：柳原良平 © Kuramata Design Office
7□	倉俣史朗《ハウ・ハイ・ザ・ムーン》1986年 富山県美術館蔵　撮影：柳原良平 © Kuramata Design Office
8□	倉俣史朗《ミス・ブランチ》1988年 石橋財団アーティゾン美術館蔵 撮影：道忠之© Kuramata Design Office
9□	倉俣史朗《アクリルサイドテーブル #2》1989年 株式会社イシマル蔵 撮影：道忠之 © Kuramata Design Office
10□	倉俣史朗《イメージスケッチ「夢日記」》1980年代 クラマタデザイン事務所蔵 撮影：道忠之 © Kuramata Design Office
11□	倉俣史朗《イメージスケッチ「ミス・ブランチ」》1988年頃 クラマタデザイン事務所蔵 撮影：道忠之 © Kuramata Design Office
12□	倉俣史朗　1990年　撮影：小川隆之　©Kuramata Design Office

貴社名／	ご所属部署／
ご担当者／	TEL／
E-mail／	
貴媒体名／	媒体種／
掲載号・露出予定日／　　月号（　　月　　日号）　／　　月　　日発売予定　□WEBへの転載あり	
サイトURL／	
媒体プレゼント用チケット／□希望（2組4名まで）※１点以上の広報用画像使用必須 お送り先／〒	

【報道に関するお問合せ】

倉俣史朗のデザイン展　京都会場広報事務局（ネネラコ内）
E-MAIL ／ kuramatashirodesign-kyoto@nenelaco.com　TEL ／06-6225-7885　FAX ／06-7635-7587
〒531-0072　大阪市北区豊崎3-15-5 TKビル